

参考資料

1. 番組進行表は、その番組を公開しても他人に迷惑をかけないものであることの証拠

(1)放送番組に関する権利処理(日本民間放送連盟のウェブサイトより引用)

<https://www.j-ba.or.jp/category/minpo/jba101970>

毎日休みなく放送される放送番組は、その一つ一つが「権利の束」であり、放送番組制作に携わる多くの権利者の創作活動により成り立っています。

放送局は、これらの権利者の許諾等をとったうえで、番組制作を行う必要があります。

番組制作時にクリアすべき権利を大別すると、以下のとおりとなります。

【著作権】

■著作権法で、著作者の権利(著作権)や著作物を伝達する者の権利(著作隣接権)を規定 ⇒ 原則として許諾を得ることが必要

【肖像権やプライバシー】

■判例で認められてきた権利 ⇒ 個々に判断することが必要

※放送番組においては、プライバシーが問題になることが多い。

【契約に基づく権利】

■主催者の権利(スポーツ中継や舞台中継など)

■取材時の約束(神社仏閣・古美術の所有者など)

このうち、番組に含まれる主な著作権、著作隣接権は、以下のとおりです。

・音楽(著作者)

・レコード音源(レコード製作者、実演家)

・文芸=原作(著作者)

・脚本(著作者)

・実演(実演家)

(2)番組進行表の趣旨

・様式2-2「CUEシート」…番組の中で使っている他の著作物などの使用箇所がわかるようにするもの

・様式2-3「権利処理一覧表」…他の著作物などの一覧を記すもの

・様式2-4「音源使用許諾申請書」…音楽著作物の著作隣接権許諾を得ている証拠

・様式2-5「取材許諾・著作物等ご提供のお願い」…特別な許可が必要な撮影等の許諾や、

音楽以外の著作物の使用の許諾を得ている証拠

2. 音声・映像ファイルは再生できるもの・審査してもらえらるものにする

(1) 放送用CM素材ファイルの構成 (ファイル、民放連「テレビCM素材搬入基準」)

<https://www.j-ba.or.jp/category/references/jba100805>

← CM素材先頭方向			番組進行方向 →		
← リーダー →	← 主信号 →				← 主信号 →
← 調整用信号 →	← CMリーダー →				
カラーバー	クレジット	ファーストカット	CM		ラストカット
1kHz	無音声	無音声	無音声	無音声	無音声
← 5秒 →	← 2秒 →	← 3秒 →	← 0.5秒 →	← 0.5秒 →	← 3秒 →

カラーバー信号はARIB STD-B28 1.0版が望ましい
1kHzの正弦波信号は0VUレベル(-20dBFS)

CM内容の開始点より0.5秒間と、終了点までの0.5秒間は、必ず無音声とする
タイムコードはドロップフレームモード

(2) アナウンス・朗読の音声ファイルの構成…以下を1トラックにして音声ファイルを作成

← 番組先頭方向		計時区間開始	計時区間終了	→ 番組進行方向
アナ朗本編				
無音声		無音声		無音声
← 0.5秒 →		← 0.5秒 →		← 3秒以上★ →

ピークレベル0dB(-1dBTP推奨)★★

(3) 東北大会テレビキャンペーン部門の映像ファイルの構成…以下を1トラックにして映像ファイルを作成

← 番組先頭方向		計時区間開始	30~60秒	計時区間終了	→ 番組進行方向
カラーバー (様式3)	TC本編			カラーバー (様式3)	
無音声	無音声		無音声	無音声	
← 5秒 →	← 0.5秒 →		← 0.5秒 →	← 5秒 →	

ピークレベル0dB(-1dBTP推奨)★★

(4) 東北大会ラジオキャンペーン部門の音声ファイルの構成…以下を1トラックにして音声ファイルを作成

← 番組先頭方向		計時区間開始	30~60秒	計時区間終了	→ 番組進行方向
タイトルコール		RC本編		クレジットコール	
無音声	(BGM・SEを重ねない)	無音声	無音声	無音声	(BGM・SEを重ねない)
← 0.5秒 →		← 3秒 →	← 0.5秒 →	← 0.5秒 →	← 3秒 →

部門名「タイトル」
ピークレベル0dB(-1dBTP推奨)★★
制作は〇〇でした

(5) 全国総文祭ビデオメッセージ部門の映像ファイルの構成…以下を1トラックにして映像ファイルを作成

← 番組先頭方向		計時区間開始	5分以内	計時区間終了	→ 番組進行方向
カラーバー	AP・VM本編			カラーバー	
無音声	無音声		無音声	無音声	
← 5秒 →	← 0.5秒 →		← 0.5秒 →	← 5秒 →	

ピークレベル0dB(-1dBTP推奨)★★

(6) 全国総文祭オーディオメッセージ部門・NHK杯ラジオドキュメント・創作ラジオドラマ部門の音声ファイルの構成…以下を1トラックにして音声ファイルを作成

← 番組先頭方向		計時区間開始		計時区間終了	→ 番組進行方向
本編		クレジットコール			
無音声		(BGM・SEを重ねない)		無音声	無音声
← 0.5秒 →				← 0.5秒 →	← 3秒以上★ →

ピークレベル0dB(-1dBTP推奨)★★ 制作は〇〇でした

(7) NHK杯テレビドキュメント・創作テレビドラマ部門の映像ファイルの構成…以下を1トラックにして映像ファイルを作成

← 番組先頭方向		計時区間開始		計時区間終了	→ 番組進行方向
カラーバー (様式3)	本編		ラストにクレジットタイトル (秒数指定無し)	カラーバー (様式3)	
無音声	無音声		無音声	無音声	
← 5秒 →	← 0.5秒 →		← 0.5秒 →	← 5秒 →	

ピークレベル0dB(-1dBTP推奨)★★

★ CDの本編のあとには3秒以上の無音をつける。再生機によっては、CDの最終トラック最後の3秒程度が再生されないことがあるため。

★★ 放送用音声レベルはピークレベル-20dBTPが標準。ただしコンテストではCDとDVDを同じ機材・回線で審査することからCDに合わせて0dBとする。映像素材の周囲10%はテレビでは表示されない(オーバースキャン)ことを前提に編集をする。

同様に、周囲20%には、テロップを入れない。

3. アナウンス・朗読録音ガイドライン

以下を参考に適切に録音する。

高校放送部のためのアナウンス・朗読録音ガイドライン / 東北地区高文連放送部会
<http://www2.iwate-ed.jp/housou/tohoku/anarou.pdf>